

(様式1) 平成 24 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201192		
法人名	有限会社 シリウス		
事業所名	グループホーム レラティブ別府		
所在地	兵庫県神戸市西区北別府5丁目31-4		
自己評価作成日	平成24年7月26日	評価結果市町村受理日	平成24年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が介護理念を理念を理解し入居者の笑顔を第一に考えている。また、学習担当や食事担当・排泄等役割があり、やりがいを持って働いている。入居者様と一緒に食事や掃除、洗濯を行いゆっくりと穏やかな毎日が過ごせるように日々職員全員が意識している。共用型デイサービスも理解され、家族との協力の中でできる限り住み慣れた自宅での生活を援助し、限界になればグループホームの入居が出来るように支援している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眺望が広がる高台に位置する施設である。自然光が差し込む明るく清潔なリビングで利用者、職員は和やかに生き生きと穏やかな時間を過ごされている。代表、職員は地域密着型サービスとして役割を盛り込んだ理念に基づいたケアの実践に努めている。地域行事への参加は利用者の身体状況により参加する方が少なくなってきているが、民生委員の方やボランティアの来訪で庭で花や木を植え、継続して庭づくりを行ってもらい交流を継続している。中学生のトライやるウィーク、小学生の福祉体験の受け入れを通して交流も継続できている。「レラ日記」を奇数月に発行し家族が利用者の状況をわかりやすく、意見や提案を出しやすいようにしている。また、メールで普段からケアの細かな部分まで報告や連絡を行っており、提案が出される機会ともなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成24年8月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念をホームの階段や職員の目につきやすいところに掲示している。新しい職員が増えてきたため今後も、「介護理念」復唱し続けることで、毎日のケアに生かされるよう努力している</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念を継続して職員のしやすい位置に掲示し浸透を図っている。カンファレンスや会議の中で理念に基づいた話を繰り返し行い、認知症が進行しても、ケアのどのような場面でも利用者の方と共に生きることを活かしたケアの提供を行うようにしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>近隣のボランティアや民生委員の協力を得ながら地域との交流を意識している。公園・飲食店・スーパー・美容院など地域とかわりを持ち続けている。小学生・中学生との交流も定期的に行っている</p>	<p>現在1~2名程度しか利用者が参加することが難しくなっているが、民生委員の方やボランティアの来訪で庭で花や木を植え、継続して庭づくりを行ってもらい交流を継続している。中学生のトライやるウィーク、小学生の福祉体験の受け入れを通して交流も継続できている。地域で開催されるリバーフェスタ等参加の呼びかけを行ってもらっているが、利用者の身体状況により参加が難しい状態になっている。近隣の方には、畑でできた花や野菜を持ってきてもらったりしている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の民生委員の見学の受け入れを行ったり、いつでも見学を受け入れ認知症に関する説明・案内は行っているが、積極的な発信が出来ていない</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議開催当初はサービスの実際や状況報告を行っており、また家族からも意見があり、サービスの向上につながっていた。現在も報告・話し合いは継続しているが新しいサービスの向上は横ばい状態である</p>	<p>2カ月に1回奇数月に会議の開催を行っている。民生委員、利用者家族、他のグループホームの施設長、あんしんすこやかセンター職員、利用者の方が参加し、事業所の活動報告や利用者状況の報告を行っている。また、事業所から認知症に対する理解と協力を深めるための説明も行っている。運営推進会議には、全家族の方に参加呼びかけを行っている。参加メンバーから出された地域の行事の情報などは、事業所の活動に活かしている。</p>	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区との連絡やサービスの内容は伝えられている。区や地域の「あんしんすこやか」との連携もとれている。	あんしんすこやかセンターや利用者の状況により市の担当窓口とは、常に連絡を取り合い、情報提供と協働を図ることができるように取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会は定期的に行われ全職員が理解し努力している。また事例検討会も行い全職員で拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画で定期的に身体拘束の弊害については、学ぶ機会を持ち、拘束をしないケアについての理解を深めている。事例検討を研修に盛り込み、事例を通して拘束をしないケアの実践が徹底できるようにも取り組んでいる。利用者の認知症の状態やむを得ず拘束を行う場合は、安全性を考え常に検討を重ね利用者にとって何が大切であるか考え対応を行っている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的に行っている。またお互いに日々のケアが虐待に繋がらないか意識してケアしている	年間の研修計画で年1回定期的に高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち、虐待の範囲の理解を深めることができるようにしている。事例検討を研修に盛り込み、事例を通して虐待についての虐待防止の徹底を図っている。	
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者の中にはりんネットを利用している方もいる。また、玄関ホールに成年後見制度利用のパンフレットを置き面会者にも活用できるように支援している。	社会福祉協議会が発行している成年後見制度の活用サポートのパンフレットを活用し職員だけでなく、利用者家族も理解し活用しやすいようにしている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書で十分な説明を行っている。納得していただけるまで説明し、質問し易い雰囲気を心がけている。	契約時には、管理者が説明を行っている。グループホームでの生活については禁止事項を含めて十分に説明を加え、家族の理解と協力を得ることができるようにしている。契約書の内容の変更時は、変更部分のみを書面を持って内容を説明し理解を得るようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が意見・要望を言い易い雰囲気心がけている。運営推進会議も皆が意見を出し会えるようにしている。	「レラ日記」を毎月発行し家族が利用者の状況をわかりやすいようにし、意見や提案が出し易いようにしている。就労している家族の方が多いので、メールで普段からケアの細かな部分まで報告や連絡を行っており、メールのやり取りで意見や提案を受ける機会ともなっている。事業所で行われる秋祭りの後で家族に声かけを行い、近隣の喫茶店で話をする時間をもち、家族からの意見や提案・要望を聴取する機会となっている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は日々フロアに出入りしており、何でも話せる雰囲気にづくり心がけている。各フロアのリーダーとも日々情報交換を行い意見・提案を反映しやすいようにしている	毎月のミーティングの機会には、職員から意見や提案が出されている。また、代表者・管理者は普段から各フロアに出入りし職員がいつでも意見や提案が出され運営やサービスに反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日フロアを回りながら職員の状況や努力、実績を把握している。各自が働きやすいように環境に気を配っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に積極的に申し込み職員が受講できる機会を与えている。受講料や時間も配慮され研修の機会は確保されている。内部学習も定期的にあり職員全員が学習の機会がある		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会やグループホーム連絡会に参加し情報交換をしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人・家族に随時見学をしていただき疑問や不安に思っていることをなくし、よう十分な話が出来るようにしている。職員の介護状況も見えていただきながら、ホームの理念を説明し、不安なく入居できるように支援している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より要望や希望を十分に話し合い不安のないようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に要望や希望を聴き、他施設や他の福祉サービスも検討の中に入れ、ケアマネジャーや専門職などの意見も含め、適切な支援が出来るように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念である「共に生きる」を実践している。尊敬の念を第一にした中で声かけ・言葉遣いを徹底しているが、家庭的な雰囲気は大切に一緒に生活している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	メール・手紙で状況の報告をし必要なときには家族の協力も得られている。面会時には利用者、家族に時間をゆくと持てるように支援している		
20	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会も家族・本人の理解を取った上、関係を持ち続けられるようにしている。面会者との外出、外食もしている	契約時より家族には、面会の機会を多く持ってもらえるように話を行い、家族との関係継続ができるよう支援している。利用開始前より関係のあった知人や友人の面会もあり、関係の継続ができるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格・行動を把握した上で、入居者同士が支えあったり、かわりを持てるように支援している。職員は近くで見守りながら、入居者同士が良い関係が出来るように支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族との交流がある。福祉用具の相談に乗ったり、家族の支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や希望を聴き本人の希望に添えるようにしている。聞き取りが難しいときには家族、職員とカンファレンスを行い本人本位に生活ができるよう支援している	利用者の半数は自ら何がしたいか訴えることが難しい状況になっている。利用者本人が利用開始時より自らの役割として認識している日常生活の行為を、継続することができるように、家族・職員と話し合いを行いながら支援している。日々の何気ない会話の中で利用者一人ひとりの思いや意向・希望を聞き出すように取り組んでいる。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や希望を聴き本人の希望に添えるようにしている。それまでのサービス提供者と情報を交換し把握に努めている		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	7職員全員でカンファレンスを行い連携をとりケアをしている。入居者様一人一人に担当者を決め中心となり、現状の把握に努めている		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族の訪問時や、メール交換の中から本人の希望や家族の希望を把握し取り入れながら作成している。毎月カンファレンスを行い実施状況や目標の見直しも行っている。家族煮の希望がなかなか聴きだせていない	家族が面会に来訪された時や普段のメールのやり取りから家族の意見や提案・思いを把握し介護サービス計画に反映させるようにしている。毎月1回のカンファレンスで利用者の状況・計画の実施状況を話し合い、把握した思いや意向・希望を取り入れた、現状に即した介護計画の見直しができるようにしている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容や食事・水分量は全員が見やすいように1箇所まとめている。カンファレンス時には記録を振り返りの材料としてカンファレンスに活かしている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも定着し、地域の介護 支援専門員にも理解されてきた。デイ利用 の方の家族の支援も担当ケアマネージャー と一緒に柔軟に対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域のボランティア、近隣の小 学生との交流も定着しお互いに楽しみ になっている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	主治医の往診は週に1回定期的にあり夜 間の対応もあるため、主治医を中心に医療 の対応はしている。泌尿科、歯科等他医院 の受診も連携をとりながら適宜対応してい る	週1回の主治医の往診と24時間の連絡体 制が取られている。入院の必要性がある場 合には、協力医療機関への入院ができる体 制を整えている。泌尿器科・歯科等他科にも 医師と連絡を取り、適切な医療を受けるこ とができるように往診や受診ができるように支 援している。必要時には、訪問看護で主治 医と連携を図りながら健康管理を行なってい る。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している	訪問看護を使用する際は主治医と連携をとり ながら行い、また日々のケアチェックや様 子を細かく介護職から看護師に報告してい る。ターミナルケアも希望により行うため、 看護師とも24時間対応を依頼している		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	入院時にはケア内容や身体状況を伝え、主 治医からも医療機関に情報提供をしても らっている。入院時には職員が見舞いに行 き安心して治療が出来るようにサポートし ている。医療機関と退院に向けた話し合いも あり家族と一緒に早期退院に協力し ている	入院時には職員が同行し、医療機関へケア 内容や利用者の暮らしぶりやADL等の情報 提供を行い、適切な医療がスムーズに受け ることができるように支援している。入院中 は医療機関からの説明がある場合には家族 の了解を得て同席し、利用者の状況を把握 するようにしている。利用者が早期に退院し 元の生活に戻ることができるように医療機関 との連携を図っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からターミナルケアの話を行いホームの出来ること、できないことの理解をおたがいに話し合っている。不安なときは家族、主治医、介護職一緒に話し合っている。	重度化・終末期に向けた方針については、契約時に説明を行い家族の意向を確認し、対応するようにしている。また、利用者の状態の変化に合わせてもその時点での家族の意向や希望を確認しながら、利用者・家族の意向や希望に沿って重度化・終末期の対応を行い、ターミナルケアを行うようにしている。ターミナルケア時期には、訪問看護師や医師・家族・職員と話し合いを行いながら看取りを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は勉強会で学んでいるが、実践不足の職員もまだ居る。リーダーが中心となり、経験の浅い職員には個別に指導している		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間の火災も含め訓練を行っている。地域の消防署の指導のもと避難訓練も行った	施設は自然災害は考えにくい立地条件にあるが、年2回の昼夜想定での避難誘導訓練を実施している。近隣での火災発生時にも消防署や職員との連携を図り被害はなかった。スプリンクラーの設置も指導の通りに行っている。食料や水は、法人本体が非常災害時に提供してもらえるように協力体制が整えられている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮したケアは職員全体が意識している。排泄介助時にも他の方に解らないようにそっと声かけを行う。個人情報に関しても鍵つきの書棚に保管している	定期的な研修で職員は、高齢者の尊厳やプライバシーの保護・接遇の知識を深め、日々のケアの中で継続的な取り組みを行っている。排泄や入浴時などにも声かけや誘導に配慮している。「レラ日記」やホームページ等に掲載する写真にも配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の望むことが言い易い雰囲気作りを心がけている。特に予定を作らずに出来る限り希望に添えるように努力している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の決まった予定はなく、入居者のペースで過ごせるように支援している。職員も常に意識し、業務を優先せず、入居者のその時したいことを優先している		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容もあるが、地域的美容院にも出掛けている。更衣時も自分で選んでいただく。衣類の買い物も出来る限り一緒に買い物に行き選択する楽しみを持っていただく。お化粧品を楽しまれている方も居る		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえから片づけまで出来ることは一緒に行っている。食事も職員と一緒に食べ、食後もゆっくりとお話を楽しんでいる。ミキサー食も手作りをしている	食材の搬入を受け各フロアで調理している。利用者の状況や希望により調理や配膳・後片付けなどに参加できるように支援している。季節行事に合わせた食事や誕生日などには利用者が好む、ちらし寿司などを取り入れ利用者と共に調理し楽しむこともある。利用者の嚥下や咀嚼の状況により、刻みやミキサー食の提供も行っている。高カロリー食の方にも楽しみができるように他の人と同じメニューをミキサー食にして提供している。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとにバランスのとれた食事を提供している、体調により食事量も一人一人きをつけている。水分量は表に記録し把握している		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施、義歯をつけている方は夜間に義歯洗浄液につけ清潔を保持している。歯のない方の舌苔が付かないようにケアしている		
43	(20)		排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄のパターンを把握している。トイレでの排泄に全体で取り組んでいる。パッドの使用量を把握して、使用方法を全員で検討もしている	全体で三分の一の利用者が排泄の自立ができています。排泄チェック表の活用により、利用者の排泄のパターンを個別に把握し、誘導を行い、トイレでの排泄を大切に本人に合わせた支援に取り組んでいる。できる限り布パンツで排泄の自立ができるように全職員で支援している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に根菜類を多くし雑穀米も取り入れている。水分摂取も日々意識し便秘にならないように配慮している。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や生活習慣を大切にしながら入浴をしていただいている、本人からの希望がなければ職員が体調やようきょうに応じて入浴していただいている。希望があれば出来る限り対応はしている	拒否が強い方でも1週間に1回は、日や時間、人を変え入浴してもらえるように支援している。利用者のADLの低下した場合にも介助の方法や介助の職員の人数を工夫して入浴してもらえるように取り組んでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後にお昼寝をする方もおられ、居室で自由に横になっている。特に就寝時間も決めておらず本人の生活習慣を大切にしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬状況がすぐわかるようにホール近くにファイルしている。体調の変化を把握し薬剤師と連携をとっている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や持っている力に合わせ、掃除・調理を職員と一緒にやりがいをしている。中庭に出たい方やメニューと違う食事を希望するかた等にも出来る限り対応し気分転換を図っている		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良いときには近隣の散歩や中庭でのお茶などはよく行っている。また地域のイベントにも参加し夏祭りや音楽会にも参加している。家族の協力により遠方まで出掛けられる方も居る	気候の良い時期には、近隣の公園などに頻繁に出かけるようにしているが、夏の暑い時期や冬の寒い時期には、外で過ごす機会が少なくなっている。利用者が外出したい意向や希望がある場合には、できる限りすぐに出かけるようにしている。季節に合わせた外出も企画を立て外出ができるようにしている。買い物の希望があれば、職員が支援したり家族の協力を得て外出している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持ちたいとの希望をされる方は居るが、紛失を家族に了解の上小銭を持っていただいている。外出時には入居者に払うように支援しているが困難な方が多い</p>	/	
51			<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を持っている方のおられ自由に連絡は取っている。また家族様がホームに掛けてこられれば出来る限り入居者と変わるようにしている。名前を書くことが困難な方が多く手紙のやり取りはない</p>	/	
52	(23)		<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは安全を考え家具は最低限に抑えている。落ち着いた空間を大切にすうように季節の飾りを壁にしている。温度・湿度・採光は常に意識している</p>	<p>自然光が差し込む明るいリビングは開放感がある。清潔な共用空間にテーブル、ソファを配置し思い思いに過せる環境作りが出来ている。壁面の装飾から季節感が感じられ、職員と利用者の会話や笑い声が聞かれ、家庭的な雰囲気の中で過ごせる空間作りが行われている。</p>	
53			<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになれる場所や他の方と談笑できる場所もあり、好きなところでつるげようになっている</p>	/	
54	(24)		<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にはそれまで使っていた馴染みの家具を搬入している。居室には本人の描いた絵や写真を飾り居心地よく暮らせるように家族と一緒に支援している</p>	<p>利用者が使い慣れた家具や仏壇などなじみのものを配置し、利用者の趣味や嗜好に合わせ小物を置き、本人が落ち着いて暮らせる雰囲気作りが見られる。また、家族の協力を得ながら季節ごとの衣類の入れ替えを行う等本人が居心地良く暮らせる配慮を行っている。</p>	
55			<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで安全に移動できるようにしている。トイレなどは張り紙をして迷わないようにしたり、のれんを利用している</p>	/	